（別紙様式）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（Ａ３判横）

# 令和７年度 学校自己評価システムシート（県立秩父特別支援学校）

| | |
|---|---|
| 目指す学校像 | 児童生徒同士の学び合い、教職員同士の学び合いを推進する学校<br>児童生徒が心身共に健康で、持てる力を発揮できる学校<br>児童生徒が将来への自信や生きがいを感じ、自立（自律）できる生活力を育成する学校<br>児童生徒と教職員・地域が、元気で笑顔の絶えない、共に暮らしながら成長する学校 |

| | |
|---|---|
| 重点目標 | １児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた自立活動の視点を踏まえた集団及び個別の授業を実践し、専門性を向上させる。<br>２保護者・地域・学区域の学校及び関係機関等との連携を図り、特別支援教育の理解啓発と協働を通して「地域と共にある学校づくり（コミュニティ・スクール）」を推進する。<br>３児童生徒の安全を確保し、児童生徒自らが生涯を通して、健康に生きる力を身につける教育活動を展開する。 |

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|---|---|---|
| 達成度 | A | ほぼ達成（８割以上） |
| | B | 概ね達成（６割以上） |
| | C | 変化の兆し（４割以上） |
| | D | 不十分（４割未満） |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|---|---|---|
| 出席者 | 学校関係者 | ８名 |
| | 生徒 | １名 |
| | 事務局（教職員） | １１名 |

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価（　2月　1日 現在） | | | 実施日　令和８年２月２５日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 特別支援教育の理念「自立と社会参加」を念頭に置き卒業後を見据えた教育を実践するためには、個々の特性の理解と本人の教育的ニーズや保護者の願いを把握したうえで指導支援を実践していかなければならない。今年度も引き続き、本校の指導体制「秩父スタイル」（各学部と自立活動部が連携した指導体制）を展開する。自立活動の「時間における指導」において個別指導の充実を図る。集団の指導においても個々の課題を達成することができるように、連携と協働を軸にした指導体制を充実させ、高等部3年生全員の進路決定につなげていく。<br>また、児童生徒の持てる力を最大限に発揮できるようにするためには、保護者との連携も欠かせない。今年度は保護者に対して積極的に情報を周知し、保護者支援を充実させるとともに、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者、関係職員及び関係機関等と連携を図り、管理職を含めたチームで対応していく必要がある。 | 各学部と自立活動部による連携と協働によるチーム支援 | ①昨年度の指導の引き継ぎを基に、児童生徒一人一人の実態を把握し、教育支援プラン及び自立活動の指導計画の作成を行い、根拠に基づいた指導を行う。（4、5月、通年）<br>②家庭訪問や面談を通して、児童生徒の特性や教育的ニーズを把握する。また、個別的な配慮がより必要な場合は、保護者支援を含めて管理職や関係諸機関と連携を踏まえて対応する。（4・5月）<br>③「ほっと相談」等を通して、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者が担任だけでなく誰にでも相談することができる環境を整える。（通年）<br>④ケース会議、支援会議を状況を踏まえて適宜実施し、関係職員間の情報共有及び協力体制を整える。（通年）<br>⑤報告、連絡、相談、確認を徹底し、情報共有を通じて、全職員で協力して課題解決に取り組む。（通年）<br>⑥高等部3年生全員の進路決定に向けて、進路学習、企業と連携した進路開拓等を進め、産業現場等における実習等を通じて、生徒一人一人の主体的な取組を促す。（通年） | ①引き継ぎを行い、児童生徒一人一人の実態を把握し、教育支援プラン及び自立活動の指導計画の作成を行い、根拠に基づいた指導を行うことができたか。<br>②家庭訪問や面談を通して、児童生徒の特性や教育的ニーズを把握することができたか。また、個別的な配慮がより必要な場合は、保護者支援を含めて管理職や関係諸機関と連携を踏まえて対応することができたか。<br>③「ほっと相談」等を通して、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者が担任だけでなく誰にでも相談することができる環境を整えることができたか。<br>④ケース会議、支援会議を状況を踏まえて適宜実施し、関係職員間の情報共有及び協力体制を整えることができたか。<br>⑤報告、連絡、相談、確認を徹底し、情報共有を通じて、全職員で協力して課題解決に取り組むことができたか。<br>⑥高等部3年生全員の進路決定に向けて、進路学習、企業と連携した進路開拓等を進め、産業現場等における実習等を通じて、生徒一人一人の主体的な取組を促すことができたか。 | **評価項目「各学部と自立活動部による連携と協働によるチーム支援」は概ね達成した。**<br>①年度当初にかけて引き継ぎを行い、児童生徒一人一人の実態を把握することができた。また、教育支援プラン及び自立活動の指導計画の作成を行い、根拠に基づいた指導を年間を通じて実施することができた。<br>②家庭訪問期間に、児童生徒の特性や教育的ニーズを把握することができた。個別的な配慮がより必要な場合についても必要に応じて話合いを持つ等、福祉関係、児童相談所等関係諸機関と話合いを継続し、連携しながら対応することができた。<br>③「ほっと相談」を通じて、気軽に相談できる環境を整えた。相談関係職員等チームで対応することができた。年間で27回の相談があり、計5ケースについて丁寧に対応することができた。<br>④ケース会議については9回、支援会議については1回、外部主催支援会議については22回実施した。関係機関の職員と連携を図り、児童生徒について情報共有を行うことで、協力体制を築くことができた。また、外部専門家との連携では、堀CDPは15ケース、高荷STは24ケース、久喜OTは21ケース、山中PTは21ケース対応いただいた。計18日間で81ケースのコンサルテーションを実施し、児童生徒の支援に役立てることができたが、登校や生活環境等の支援は次年度も継続して行っていく。<br>⑤児童生徒への指導・支援、保護者への支援、関係諸機関の連携等チームで対応し、職員間の報告、連絡、相談、確認の徹底と情報共有を通じて、全職員で協働して課題解決に取り組むことができた。<br>⑥高等部3年生の進路指導については、担任、保護者、進路指導主事及び進路指導副主事との連携を図り、産業現場等における実習等を通じて、生徒一人一人の主体的な取組を促すことができた。進路選択を広げるため、企業については4社、福祉作業所については1事業所を新規に開拓した。進路先については生徒及び保護者の希望の進路を決定することができた。 | B | ・次年度も引き続き、本校の指導体制「秩父スタイル」（各学部と自立活動部が連携した指導体制）を継続していく。自立活動の「時間における指導」において個別指導の維持・発展を図る。自立活部を中心に県外に発信している「自立活動の事例研修会」等をさらに充実させ、教職員の主体的な学びを促進させていく。集団の指導においても個々の課題を達成することができるように、連携と協働を軸にした組織的教育力をさらに向上させていく。<br>・保護者との支援や連携ををさらに充実させるとともに、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者、関係職員及び関係機関等と連携を図るとともに、管理職を含めたチームで対応し、ケース会議や支援会議等を充実させ、協働的な支援体制づくりを強化していく。<br>・高等部3年生全員の進路決定のために、指導指導主事、進路指導副主事と連携しながら、さらなる進路開拓を進める。 | ・きめ細かい対応と多数の会議・連携に感銘を受けた。数字からも尽力されてきた様子がうかがえる。B評価でも継続改善の意思として前向きに捉えさせていただいた。<br>・会議が多い一方で、業務とのバランスを工夫することも大切であると考える。緊急性の高い会議が、休憩時間に行われる場合もあるが、後で休む時間を確保されていることや会議の枠は設定しつつも、各部署での裁量で実施しないこともあるとのことで、継続していただきたい。<br>・先生方の多職種連携による支援に感謝したい。子どもたちが毎日安全に学校生活を送っていると実感している。<br>・行政は連携が進んでいる。入口はどこでもよいと思うので、まず声をかけてほしい。状況に応じてコーディネートさせていただく。<br>・親自身が支援対象になる視点が必要である。地域生活支援拠点（緊急一時）の活用や自立支援協議会の課題化を提案したい。共通言語や共通理解を持ち、1人で抱えない体制づくりをお願いしたい。業務が積み重なると負担感が増大する。「やめる会議」で不要業務を洗い出すことも必要である。GoogleフォームやAIで業務最適化し、児童生徒の可能性を伸ばす活動に時間を振り向ける工夫も検討いただきたい。 |
| | 昨年度は、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。特に、教員の要望に応じた研修内容を検討し、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るとともに、組織的に教育を実践していくための研修を実施することができた。<br>今年度も、外部講師招聘研修の実施等、引き続き、教員の要望に応じた研修を各学部で実施することで特別支援教育の専門性をさらに高め、昨年度以上に資質の向上を図っていく必要がある。 | 指導の継続・発展にかかる研修の充実と特別支援教育の専門性の更なる向上 | ①職員の共通理解を図るため、年度初めに、教育支援プラン等やアセスメント等の基礎研修を実施する。（4・5月）<br>②学部研修等において、外部講師を招聘して研修等、教員の要望等を踏まえた研修内容を実施する。（通年）<br>③自立活動部と連携して、自立活動の充実に向けて、新転任者対象研修会、事例検討会等を実施する。（通年）<br>④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図るため、他校の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりする。（12・1・2月） | ①職員の共通理解を図るため、年度初めに、教育支援プラン等やアセスメント等の基礎研修を実施することができたか。<br>②学部研修等において、外部講師を招聘して研修等、教員の要望等を踏まえた研修内容を実施することができたか。<br>③自立活動部と連携して、自立活動の充実に向けて、新転任者対象研修会、事例検討会等を実施することができたか。<br>④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図るため、他校の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりすることができたか。 | **評価項目「指導の継続・発展にかかる研修の充実と特別支援教育の専門性の更なる向上」はほぼ達成した。**<br>①年度当初に、教育支援プラン研修やアセスメント等の基礎を予定どおり実施し、全教職員の共通理解を図ることができた。<br>②「秩父特支新時代～軌跡と躍進～」をテーマに掲げ、各学部で学部研修を年間を通じて10～11回実施した。全体研修「障害のある子の教育と人権」や要望に応じた外部講師招聘研修を実施した。93％の教職員から高い評価を得た。<br>③「自立活動について」の研修や「NCプログラム」「太田ステージ」の研修会を自立活動部を中心に実施した。また、「自立活動の事例研修」を計3回実施し、校内外の参加を得て、報告することができた。<br>④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実や学びの場の連携に向けて、秩父農工科学高校定時制の見学を実施した。筑波大学附属大塚特支、千葉県立流山高等学園、狭山特別支援学校狭山清陵分校への視察、特総研セミナー参加なども実施した。 | A | ・この2年間、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。引き続き、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るとともに、外部講師招聘研修等を実施していく。<br>・教育課程検討委員会と連携して、秩父管内の高校や県内外の特別支援学校の視察や実践報告会へ参加し、本校の教育課程や日課表の見直し、検討も進めていく。<br>・年度当初の自立活動、教育支援プラン等の基礎研修を実施し、新転任者に対して、本校の取組を伝達し、円滑な引継ぎにつなげる。 | ・保護者へのアプローチが難しいケースが増えている。学校としての対応の知見があれば共有させていただきたい。<br>・対応が難しい場合の研修が増えているとのことで、特別支援教育に関する内容については地域の学校にも情報提供いただきたい。<br>・先生方の取組に敬意を表したい。研修の充実が児童生徒に還元されることをさらに期待したい。<br>・新しく転入される先生方にも、スムーズな引継ぎ等がなされていくとよい。<br>・夏の合同研修会では大変お世話になった。今後も特別支援教育について一緒に学ぶ機会をいただきたい。 |
| 2 | 昨年度は「地域とともにある学校づくり」を進めるためにコミュニティ・スクール元年として「秩父特別支援学校を知ってもらう」ことを目標に、情報発信や地域との協働活動をできるところから取り組んできた。<br>今年度も学校運営協議会を核として、教員の参画意識を高め、本校を「見てもらう」仕掛けづくりや積極的に「見せに行く」ことで発信力を高めていくとともに、地域資源や教育力を生かした教育活動や地域貢献活動を継続して実施する。また、2年目の取組として学校紹介ビデオの活用やHPでのコミュニティ・スクールの取組紹介等、校内外への情報発信力を高める必要がある。 | コミュニティ・スクールの推進にかかる取組の整理と校内外への情報発信 | ①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介する。（通年）<br>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともにある学校づくりに必要な連携を模索し、地域と企業との連携による協働活動を検討し、実施する。（6月から適宜）<br>③学区域連絡協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。（5月～10月）<br>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介する。（通年）<br>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティスクールの各取組を実施する。（通年） | ①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介することができたか。<br>②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともにある学校づくりに必要な連携を模索し、地域と企業との連携による協働活動を検討し、実施することができたか。<br>③学区域連絡協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図ることができたか。<br>④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介することができたか。<br>⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティスクールの各取組を実施することができたか。 | **評価項目「コミュニティ・スクールの推進にかかる取組の整理と校内外への情報発信」は概ね達成した。**<br>①コミュニティ・スクールの取組の一環として、昨年度作成した学校紹介ビデオを学校公開や介護等の体験等で放映することができた。HPの更新は200回実施し、アクセスしやすいホームページを発信することができた。<br>②学校運営協議会を2回開催した。昨年度と同様に、地域とともにある学校づくりとして「本校を地域の人に知ってもらいたい」という方向性を持つとともに、地域との連携・協働に係る課題に対して、委員からも積極的な意見が出され、教育課程検討委員会でも検討することができた。<br>③学区域連絡協議会は2回実施し、学校公開は2回、中高コーディネーター情報交換会は2回実施した。<br>④今年度については、学校視察等の訪問が塙保己一学園より視察があった。（3月に予定）次年度も県内特別支援学校や民生委員等の視察を積極的に受け入れていきたい。<br>⑤マニュアル等も参考にしながら、年間を通じて、コミュニティ・スクールの各取組に取り組むことができた。「ひまわり絆プロジェクト」については、全学部による取組として実施することができた。また、新聞、ラジオ出演等積極的なプレスリリース、メディア関係への情報発信ができた。 | B | ・次年度は「コミュニティ・スクール」として今年度も学校運営協議会を核として、学校紹介ビデオの活用やＨＰでの発信、メディア関係機関への情報発信をさらに強化し、本校を「知ってもらう」取組や団体等の視察を受け入れる準備を進めていく。<br>また、「ひまわり絆プロジェクト」については今年度新たに連携して実施した秩父農工科学高校との協働をさらに進め、秩父警察との連携体制を強化していく。学校全体の取組としてさらに発信できるようにしていく。 | ・議会だよりや市報、HPバナーなど市の広報でも学校の情報を伝達させていただいている。秩父市もYoutube（おもてなしTV）やちちぶFM枠を活用している。InstagramやFacebook等も活用している。無料のツールをうまく使えば、お金をかけずに発信の強化が可能である。必要なら連携は可能である。<br>・HPやチラシに加え、LINE発信も効果的だと考えている。過剰な投稿は避けながら、タイミング重視でイベントの申込数等も伸びている。コミュニティスクールの発信にも有効であると考える。<br>・市民会館の式典オープニングで、卒業生中心の太鼓演奏が感動的だった。一生懸命さと見せ方が心を打つ。地域に誇れる発信として継続を検討していただきたい。<br>・うまさだけではなく、一生懸命さが最大の感動だった。 |
| | 地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たすため、幼・保・小・中・高等学校等への巡回指導や教育相談を行っている。学びの連続性を意識し、児童生徒のその時々のニーズに合った多様な学びの場を準備することと、適切な学びの場（就学）の選択には、センター的機能の充実が欠かせない。<br>今年度は年々増えている就学前施設の巡回にも重点を置きながら学区域学校の特別支援教育への理解啓発や指導支援にかかる助言を充実させ地域の学校との連携・協働を実践する。 | 秩父地域における特別支援教育の推進への貢献 | ①支援要請に基づき、特別支援教育コーディネーターを中心に就学前施設や学区域小中学校の巡回相談を実施し、支援について検討する。（通年）<br>②学区域学校の要請に基づき、事例研修や必要な支援方法について研修を行う。（随時）<br>③自立活動部長兼特別支援教育コーディネーターを中心に学区域の高校通級を巡回し、相談に対応したり、アドバイスを行う。（月１回以上、通年）<br>④学区域の就学支援委員会に参加し、児童生徒の適切な学びの場について検討する。（通年） | ①支援要請に基づき、特別支援教育コーディネーターを中心に就学前施設や学区域小中学校の巡回相談を実施し、支援について検討することができたか。<br>②学区域学校の要請に基づき、事例研修や必要な支援方法について研修を行うことができたか。<br>③自立活動部長兼特別支援教育コーディネーターを中心に学区域の高校通級を巡回し、相談に対応したり、アドバイスを行うことができたか。<br>④学区域の就学支援委員会に参加し、児童生徒の適切な学びの場について検討することができたか。 | **評価項目「秩父地域における特別支援教育への貢献」はほぼ達成した。**<br>①学区域の学校より巡回相談の要請を受け、計129回、204ケースについて特別支援教育コーディネーターを中心に、幼児児童生徒の支援について検討することができた。<br>②学区域小中学校に在籍する児童生徒の支援についてケース会や研修会を実施した。「様々な子供たちの支援についてアドバイスをいただき大変有難い」等のコメント等も多くいただいた。<br>③自立活動部長兼特別支援教育コーディネーターが小鹿野高校通級運営委員会に21回参加し、通級指導の運営や通級以外の特別支援教育等についても3ケース助言をおこなった。また県主催の通級協議会に4回出席した。授業についても情報交換を行い、生徒の変化や今後の授業のアイデア等について協議した。<br>④学区域1市4町の就学支援委員会に参加し、児童生徒の適切な学びの場について協議し、情報提供を行うなどして役割を果たした。 | A | ・本校が果たす秩父地域における特別支援教育への貢献の質をさらに高め、地域の特別支援教育のセンター的機能としての役割を引き続き、果たしていく。幼・保・小・中・高等学校等への巡回指導や教育相談を継続して行うとともに就学前施設の巡回、小鹿野高校通級指導教室への支援を重点的に行っていく。<br>・秩父地域における適切な学びの場（就学）の選択への情報提供を学校公開や中高コーディネーター情報交換会の場を通じて行っていく。 | ・高校通級等の広がりが進んでいるのは興味深い。特別支援学校だけでなく、高校の定時制、知的障害のない発達障害の高校段階の受け皿の話もとてもよいことだと感じる。<br>・秩父第一小学校からは、交流を長年にわたって続けさせていただいているが、今後は学年枠を撤廃したイベント参加等、より大きな単位で総合的な学習の時間等での福祉交流等、相互の行事での往来等があればありがたいという意見が出ている。今後御検討いただきたい。 |
| 3 | これまで、安全・安心な学校づくりに向けて、各部署と連携して緊急時の対応訓練を実施してきている。各教室の環境整備を進めるとと共に、危機管理を常に意識した教育活動の展開と対応訓練の内容の充実させていく。また、日頃のヒヤリハットの事例の分析を進め、事故防止につなげていく必要がある。<br>今年度は、緊急時対応訓練などをはじめとして、校内外での児童生徒の安全を確保するための訓練を通して、各マニュアルに基づいた行動対応と事故対応能力を高めていく。 | 危機管理を常に意識した教育活動の展開と対応訓練の充実 | ①健康教育部と連携して、熱中症対策ガイドラインに基づいた対応を統一して取り組み、熱中症事故の発生を防ぎ、適切かつ迅速な対応を行う。（5月～10月）<br>②施設の安全点検を定期的に進め、問題箇所があれば迅速にチームで対応する。（通年）<br>③緊急時対応訓練（捜索・救急救命・引き渡し・不審者対策・避難訓練）を実施し、実際を想定した質の高い訓練を全職員で行う。（通年）<br>④医療的ケアの実施要領、マニュアルの点検を進める。年度末にはヒヤリハットの事例を分析する。（通年）<br>⑤ヒヤリハット研修会を実施し、医療的ケアを中心に、ヒヤリハットの事例について検討する。（9月） | ①健康教育部と連携して、熱中症対策ガイドラインに基づいた対応を統一して取り組み、熱中症事故の発生を防ぎ、適切かつ迅速な対応を行うことができたか。<br>②施設の安全点検を定期的に進め、問題箇所があれば迅速にチームで対応することができたか。<br>③緊急時対応訓練（捜索・救急救命・引き渡し・不審者対策・避難訓練）を実施し、実際を想定した質の高い訓練を全職員で行うことができたか。<br>④医療的ケアの実施要領、マニュアルの点検を進めることができたか。年度末にはヒヤリハットの事例を分析することができたか。<br>⑤ヒヤリハット研修会を実施し、医療的ケアを中心に、ヒヤリハットの事例について検討することができたか。 | **評価項目「危機管理を常に意識した教育活動の展開と対応訓練の充実」はほぼ達成した。**<br>①健康教育部や関係部署と連携して熱中症対策ガイドラインに基づいた対応を統一して取り組むことで、熱中症事故の発生を防ぎ、適切かつ迅速な対応を行うことができた。<br>②施設の安全点検を5回実施した。報告をGoogle Formで集約し、結果を全教職員が常時共有できるようにした。防犯面でも実施内容を見直すことで施設管理をさらに徹底することができた。<br>③緊急時対応訓練（捜索・救急救命・引き渡し・不審者対策・避難訓練）を実施し、実際を想定した質の高い訓練を毎回緊張感を持って全職員で行うことができた。<br>④医療的ケアの実施要領、マニュアルの点検を進めることができた。昨年度大きく改定した内容を今年度着実に医療的ケアを実施した。<br>⑤9月にヒヤリハット研修会を実施した。職員の要望をもとにわかりやすい研修会を実施することができた。2月の医療的ケア検討委員会ではヒヤリハットの事例について検討することができた。 | A | ・今年度は、緊急時対応訓練などをはじめとして、校内外での児童生徒の安全を確保するための訓練を通して、各マニュアルに基づいた行動対応と事故対応能力を高めてきた。各学部での緊急時対応訓練を実施し、肢体不自由教育部門では医療的ケアを対象とした対応訓練も行い、実際を想定した訓練を充実させてきた。施設管理を常に意識し、引き続き、対応訓練を充実させ、組織的な対応力を高めていく。<br>・医療的ケアではヒヤリハット報告の様式を変更することでヒヤリハットの事例も多く出てくるようになった。事故防止にむけて、さらに環境整備を進めていく。 | ・Googleフォームでの施設点検は大変参考になる。施設でも古い建物の痛みが課題であり、情報収集の仕組みが有効であると感じた。<br>・Google フォームなどの手軽なICT活用は時間削減・共有力向上に有効である。<br>・熊対策についても心配するところであるが、自動ドアの手動化、散歩コースの注意喚起、熊スプレー・熊鈴の備え、遭遇回避を前提に対策等も行っているとのことで安全対策を継続してほしい。 |
| | これまで、健康に生きる力を身につけることをねらいとして学校保健計画に基づいた保健教育を実施してきた。昨年度は特に、歯科医師会と協働した歯みがき指導の実践が特別支援学校優秀賞を受賞することとなった。今年度も継続して、歯の健康等をはじめとして保健教育を進めていく。<br>また、相談医や看護教員、保護者と連携し、安全に児童生徒の医療的ケアを実施していく必要がある。 | 保健教育の充実及び医療的ケアの安全な実施 | ①健康教育部と連携して歯科医師会と連携した「歯みがき指導」や保健教育を実施し、歯の健康の維持を進める。（6月、11月）<br>②各学部や保健室と連携して、学校保健計画に基づいて保健教育を実施する。（通年）<br>③児童生徒へ適切な健康管理を進め、相談医、看護教員、保護者等と連携し、安全な医療的ケアを実施する。（通年）<br>④実施要領に基づき、校外での宿泊行事に看護教員が引率し、安全に医療的ケアを実施する。（11月） | ①健康教育部と連携して歯科医師会と連携した「歯みがき指導」や保健教育を実施し、歯の健康の維持を進めることができたか。<br>②各学部や保健室と連携して、学校保健計画に基づいて保健教育を実施することができたか。<br>③児童生徒へ適切な健康管理を進め、相談医、看護教員、保護者等と連携し、安全な医療的ケアを実施することができたか。<br>④実施要領に基づき、校外での宿泊行事に看護教員が引率し、安全に医療的ケアを実施することができたか。 | **評価項目「保健教育の充実及び医療的ケアの安全な実施」はほぼ達成した。**<br>①歯科医師会と連携した「歯みがき指導」はインフルエンザの影響で中止となったが、歯科健診の前に健康教育部より保健教育を実施し、歯の健康の大切さを児童生徒に伝えることができた。また、指導・支援の取組が認められ、第72回埼玉県学校歯科保健コンクールでは特別支援学校の部で優秀校として表彰された。<br>②各学部や保健室と連携して、学校保健計画に基づいて保健教育を実施することができた。高等部では生活リズムや睡眠について保健教育を実施することができた。<br>③年間を通じて、医療的ケア相談では相談医、看護教員、保護者等と情報共有を図り、医療的ケア検討委員会では、各児童生徒の安全な医療的ケアについて検討し、実施することができた。<br>④実施要領に基づき、校外での宿泊行事に看護教員が引率し、保護者負担の軽減を図り、安全に医療的ケアを実施することができた。 | A | ・今年度は昨年度に引き続き、健康に生きる力を身につけることをねらいとして学校保健計画に基づいた保健教育を実施してきた。特に、秩父歯科医師会と協働した歯みがき指導の実践が特別支援学校部門優秀校として表彰されることとなった。次年度も継続して、歯の健康等をはじめとして保健教育を進めていく。<br>・相談医や看護教員、保護者と連携し、医療的ケア検討委員会での検討を通じて、児童生徒にとって安全安心な医療的ケアを実施していく。 | ・インフルエンザ等の流行時、保護者への情報提供（特にバス乗車時の配慮）が欲しい。<br>・医療的ケアの体制整備に感謝している。ピークを越えても継続することが大事である。これまでの経緯を語り継ぎ、引き継ぐことが重要である。<br>・外部医療機関の立ち上げ支援等も得て、受け入れ体制を整備してきた。在校されている医療的ケア児は小中高で1名ずつ程度とのことだが、継続の受け入れ・支援を願っている。<br>・市議会での医療的ケア関連質問の多さを受け行政が対応してきた。学校・保護者・教員の声が議会と行政を動かす。体制維持・充実のため今後も声を上げ続けてほしい。 |